

平成25年12月4日

根本正顕彰会会報

第74号

発行者 根本正顕彰会

目次

1	ごあいさつ	副会長 仲田義一	1頁
2	第1回公開講座報告 附:資料	小林茂雄	2頁
3	根本正顕彰フェスティバル報告 附:別添資料	事務局	14頁
4	根本正ゆかりの地を訪ねる旅報告 附:資料	小林茂雄	17頁
5	「公民館まつり」発表報告 附:展示資料	事務局	21頁
6	會澤会長特別講演実施報告	小林茂雄	32頁
7	大子町観光ボランティア研修会報告	事務局	33頁
8	平成25年度茨城・ブラジル交流会参加報告	小林茂雄	34頁
9	トピックス		
①	五台小学校の6年生児童「根本正の研究発表」を行う		35頁
②	「根本正の生涯」がYouTubeに(世界中に発信)		36頁
	編集後記		37頁

【お知らせ】

平成25年度第2回公開講座

日時 平成26年2月23日(日) 13:30~15:30
会場 那珂市中央公民館
テーマ 「未成年者飲酒禁止法と柳田国男」
講師 理事 山田正巳氏

顕彰会活動この一年を振り返って

副会長 仲田 義一

当顕彰会は、設立以来今年で17年になります。会員は現在、当初より若干減少し90名。5月の総会以来、年間事業計画により順調に活動を続けております。これも偏に、会員の皆様及び多くの方々のご協力ご支援のおかげと感謝いたしております。

さて、今年もあとわずかとなって参りました。そこで、今年も実施しました主な事業である①顕彰フェスティバル ②ゆかりの地を訪ねる旅 ③公民館まつりについて反省してみたいと思います。

①顕彰フェスティバルは9月29日(日)、今年は初めて市外へ、大子町で実施しました。過去4回は那珂市内(ごだい・よしの・よこぼり・ふれあいセンター、瓜連ラポール)で行ってきました。大子町は水郡線大子駅開通に熱烈な期待と歓喜が湧き、町民が戦前戦後根本正の銅像を2回も建てたところです。開催に当たっては、町長さんをはじめ町当局のご好意により立派な施設(文化福祉会館「まいん」)をお借りして実施しました。参加者は期待したほどでなかったのはちょっと残念でしたが、今回開催したことの意義は理解され、2つのメリットがありました。1つは、学校教育の中で、町として地域の発展に貢献した人物として根本正を取り上げること。1つは、町観光ボランティアの方々が根本正に関心を持ち学習を深めるようになったことです。

②ゆかりの地を訪ねる旅は10月27日(日)、前々日来の台風27号襲来により心配されましたが、前日には通過し当日は絶好の秋晴れに恵まれ44名参加。首都高速も順調で、予定より早めに最初の目的地上野谷中墓地に着きました。ここでは正の恩師中村正直(教育同人社)、箕作秋坪(三叉学舎)、最後の将軍徳川慶喜(斉昭の7男)の墓など参拝しました。昼食は浅草仲見世近くでとり、その後浅草寺参拝などしましたが、外国人観光客特に中国人が多いのにはびっくりしました。

その後、5代将軍綱吉ゆかりの根津神社・将軍綱吉の側用人柳沢吉保が自ら設計、指揮して作った六義園など見学して予定通り終了できました。

③公民館まつりは、11月22日(金)～24日(日)中央公民館2Fロビーに根本正関係展示コーナーが設けられ、今回のテーマは「米欧貧児出世美談」。この中から役員で分担し、7偉人を紹介しました。根本正が譯述したこの書は「貧は富をつくる」の精神に貫かれています。3日間にわたり、多くの参観者に感銘を与えたものと思います。

以上3事業についてのあらましを反省を加えて述べましたが、詳しくは本号をよくお読みいただきたいと思います。最後に、今後ともますますのご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成25年度第1回公開講座開催報告

テーマ 「輝く那珂市の政治家 根本正と岩上二郎」

発表者 理事 小林 茂雄

第1回公開講座は、平成25年8月18日（日）午後1時30分から3時30分まで那珂市中央公民館にて開催され、猛暑のなか21名の参加がありました。うち、市外から4名参加（東京、日立、笠間、水戸から各1名）がありました。

当顕彰会役員の役割分担

司会進行—山田理事。 開会の挨拶—仲田義一副会長。 閉会の挨拶—増子副会長。 受付—仲田昭一事務局長・横地理事、会計。 撮影関係—鈴木理事。

講座発表内容

根本正と岩上二郎を、テーマとして取り上げた理由、共通点について説明

- (1) 両氏ともクリスチャンである。
- (2) キリスト教の信仰を背景に自己犠牲の精神で弱者の立場に立ち、いろいろな功績をあげた。
- (3) 2人とも水戸学の影響を受けている。
- (4) 根本正は明治維新の混乱期に、岩上二郎は戦後の混乱期に渡米し、前者は庭掃除、車洗い、夏季休暇中はアルバイト、後者は庭師、皿洗いをしながら生活を切り詰めて苦学した。
- (5) 政治家としてのデビューしたのは、根本正（参議院・46歳5カ月）、岩上二郎（茨城県知事・45歳5カ月）であった。

根本正について—別添資料参照（資料関連で特に説明したこと。）

- (1) 前期水戸学、後期水戸学について。
- (2) 根本正が明治8年～10年間、外国郵便神戸局や同横浜局で働いていた頃の給料12円の現在の貨幣価値について—（参考）当時の公務員の給料や待遇は悪かった。明治20年頃の小学校教員、警察官の初任給は8～9円、昭和30年頃の高卒の初任給5千9百円、大卒初任給8千7百円。（当時の既製背広の値段—1万～1万2千円）。明治10年頃の60kgの米—2円。現在の高卒初任給16万2,983円、大卒の初任給20万5,647円。などを考えると、当時のものを現在の貨幣価値に換算することは非常に難しい。勿論、現在の初任給から換算することは無理があります。米の値段で換算するのが良いし、総合的に判断すると、1円は現在の7～9千円になると考えられます。

岩上二郎について—別添資料参照（資料関連で特に説明したこと。）

- (1) 岩上二郎と交友関係にあった幡谷仙三郎・中野慶吉について
幡谷仙三郎については、著名人であり、万人の知るところであり、紙面での説明は省略します。
中野慶吉についても知るところですが、簡単に説明しますと、東京オリンピックで模範演技を披露した弓道範士10段の弓道家、「弓道教本」を執筆、太田中学校卒、昭和62年85歳で没。
- (2) 鹿島臨海工業地帯の規模について

- (3) 重症心身傷害児施設（あすなろ）の開所後について
平成15年4月月「県立コロニーあすなろ」と「内原厚生園」を再編成・統合し「茨城県立あすなろの郷」に改称、同時に地域生活支援センター及び新設居住棟を開設、現在に至る。
- (4) 1975年（昭和5年） 茨城県立歴史館館長となる。

質疑応答・意見交換

次のような質問、意見がありました。

- (1) 岩上二郎と根本正は直接の接点、根本正の影響はあったのだろうか。
いくつか共通点はあるが、直接の接点、根本正の影響はなかったと思われます。
- (2) 歴史の会で、根本正の生家を訪ね家の人から話を聞いたり、岩上二郎の墓地を訪ねたことがあります。
今日の講座は良かったです。
- (3) 知事選で岩上さんに負けて残念であった話を、友末知事の息子から聞いた話を披露されました。
- (4) 水戸射爆場の影響で漁獲高が減り大変だったことや保障問題との関連などを当時の漁業者から聞かされたことを話されました。
- (5) 岩上二郎がクリスチャンになった時期、理由について質問があった。
瓜連町長になり、戦後の混乱時であり、町政での悩みが多く、キリスト教に救いを求め、菊池牧師と関係の深いO・D・ビックスラー氏より、昭和24年11月29日に洗礼を受けた。（仲田事務局長より回答）
- (6) 鹿島開発時の用地買収六・四方式の質問に対し、参加者の木村明氏（元県職員）から丁寧な説明がありました。
鹿島開発の成否を握ったのは、港湾・工業団地・住宅等の配置に必要な5千ヘクタールに及ぶ膨大な用地の買収であった。これには、計画区域の土地を提供する代わりに、その6割分の代替地を地域外に確保するという六・四方式が提案された。そして、難しい土地取得を短期間に成し遂げ、鹿島開発を成功に導いた。この方式は、後に賛辞をもって鹿島方式と呼ばれた。（この説明については、同じく参加者の長瀬博氏（元県職員）からも説明がされました。



2時間の長時間の講座（いつもより長く、意見交換・質疑応答の時間を40分設定）に終始熱心に聴講され、また、有意義なご意見・質問などがあり、あっという間に2時間が過ぎました。ありがとうございました。

（文責 小林）

1. 根本正と水戸学の出会い

嘉永4年(1851)10月7日、東木倉村(現 那珂市東木倉)に生まれる。

文久3年(1863)豊田天功の家僕となる。

豊田天功は大日本史を編纂する彰考館総裁で、正の父・徳孝の従兄弟に当たる人であったが、主従関係は非常に厳しかった。

(1) 根本正と水戸学の出会い。

水戸学は、水戸藩初代藩主徳川頼房(威公)から尊王の精神は現れていたが、実質的には光圀の時代に始まったと言われている。光圀の教えは「我が主君は天子(皇室)なり、今の將軍は我が宗室(徳川家の本家)なり、あしく(悪しく)了簡(りょうけん)仕り、取り違え申すまじき」(『不屈の政治家根本正伝』)と言うのが基本的考え方である。

根本正は豊田家に仕えて「義公様御壁書」に大きな影響を受けたものと思われ、後年選挙の名刺の裏に印刷して用いている。

また、社会教育とは「成るべく法律に依らず自制の精神を以て立派な国民となる便利の方法」(『教育と禁酒』根本正演説)であり、この壁書九カ条の教訓をお話すると社会教育の実を上げることが出来るのではないかと述べている。

壁書9ヶ条

- (1) 苦はたのしみの種、楽は苦のたねと知るべし。
- (2) 主人と親とは無理なるもの(従わねばならない)と思え、下人は足らぬもの(物わかりが悪い)と知るべし。
- (3) 子ほど(子が親を慕うように)親を思へ、子無きものは身に比べる(自分を他と比較し反省する)ちかき 手本と知るべし。
- (4) おきてに怖ぢよ、火にをぢよ、分別なきものに怖じよ(十分注意せよ)、恩を忘るる事なかれ。
- (5) 欲と色と酒をかたきと知るべし。
- (6) 朝寝すべからず、咄(はなし)の長座すべからず。
- (7) 小なる事は分別せよ、大なる事は驚くべからず。
- (8) 九分はたらず、十分はこぼるるとするべし。
(常に最高を目指して努力をせよ。しかし、これで達成したと満足してはならない)
- (9) 分別は堪忍にあるべしと知るべし。(大事な事は人を許す広い心を持つこと)

(2) 西洋文明の衝撃—時計とマッチとの出会い—

慶応3年(1867)正は16歳の時、水戸藩南郡方の役人となる。

徳川昭武(第15代將軍徳川慶喜の実弟)は、幕府の命により、仏国・パリ博へ派遣され、この一行に随行した郡奉行服部潤次郎から土産のパット火のつく「マッチ」と正確に時を刻む「時計」を見せられ、横文字を学ぶ国を目指し、西洋の学問と英語へ

の関心を高めていった。これには最初に仕えた豊田天功・小太郎父子の実学重視の生き方の影響もあったものと思われる。天功は「頑迷な保守主義者でなく、正確な外国事情の認識なくして、欧米の外圧に対抗できないと主張」(植田泰文)して、水戸藩から、8人の蘭学留学生を送り出している。その1人が嫡男の小太郎で開国論者であった。

2 水戸から東京へ

(1) 明治4年(1871)19歳の時、4年間勤めた南御郡方役人を辞め上京した。

1) 箕作秋坪(みつくりしゅうへい)の三又学舎(英学塾)に学ぶ。

箕作秋坪は津山藩、(現岡山県)出身で、蘭学を学び、ロシアに渡り(サハリン)の境界線交渉を2回努めた国際経験の豊富な学者であった。

明治8年東京師範学校摂理になり、高等師範学校の基礎を築いた人で、最初の東京学士院会員になっている。

2) 中村正直(敬字)の同人社に学ぶ。

同人社は福沢諭吉の慶応義塾、近藤真琴の攻玉社と並んで三大義塾と云われた。

中村正直について

① 明六社の結成——森有礼。福沢諭吉。箕作秋坪と明六社を結成し『明六雑誌』を発刊したりして、自由民権思想の普及啓蒙活動をした。

② 明治6年 宣教師カックランから洗礼を受け、クリスチャンとなる。

③ 当時の男尊女卑社会の中で女性の地位向上と女性・子供の教育の向上に努めた。

④ 日本最初の高等女子師範学校を創設。

⑤ 幼稚園や訓盲院を創設。

正は中村正直の同人社に入門して教えを受け、キリスト教を信仰するようになり非常に幸せだったと(回顧八十一年)述べている。

明治11年(1878)、正は、住吉教会でノックス牧師から洗礼を受けている。正がキリスト教に帰依するきっかけになったのは、中村正直の影響もさることながら、プロテスタントの正直・真面目・愛・誠実・勤勉などの倫理に強く引かれたからではないと言われる。正の政治活動及び日常生活には、キリスト教の精神が脈々として流れている。

(2) 留学を目指して

東京では牛込の長屋で自炊生活しながら学費・生活費・渡米に備えて旅費を稼ぐため、昼間は塾で勉強、夜は人力車を引いて市内を走った。警視庁巡査ににもなったが給料が少ないので駅通寮(外国郵便局)につとめ、明治8年同人社を退学し、同年神戸局に勤務明治10年横浜局へ転勤、月給は12円であった。横浜居留地にあったヘボン塾にも入門し、英会話力をつけるため努力した。

同じ局に勤務するアメリカ人のファー氏に自分の思いを打ち明けると、正の英語を学ぶ真摯な姿勢や誠実・正直・勤勉な姿や熱意に打たれ、自分の友人であるカリフォルニア州オークランドの法曹家バラストー博士を紹介した。正は明治12年3月、「シティ・オブ・ペンギン」号でカリフォルニアに向けて出港した。

3 根本正がアメリカで学んだこと

明治12年3月、根本正はカリフォルニアに到着し、オークランドのバラストー一家で働きながら苦学し、27歳で小学校入学、中学校卒業後アメリカの鉄道王ピリングス氏の援助によりパーモンド大学を卒業するまで10年間の留学生活を送った。

正はアメリカの留學生活を経験し、次の4つの処世術を学んだという。

(1) 「神はかたよらず」ということ

神は誰にも平等である。誰でも努力すれば立身出身できる。

(2) 「貧は富をつくる」ということ

正はバーモント大学の卒業式でバッカム総理が話した言葉「貧は富をつくる」の言葉に深く感銘を受け、帰国後『欧米貧兒出世美談』を発刊している。

貧賤の家に生まれた者は、その経験から儉約・分別・道理を学び、徳を納め知恵も備わり一家を治め世のためになることは明らかである。そして、「勤勉忍耐の気力と百折不屈の精神」を身につけると。

(3) 「受くるより与うることは幸いなり」ということ

イギリスの慈善家サー・タイタス・ソールト氏はヨークシャー地方の貧しい家の生まれであるが、苦勞の末、羊毛工場の経営者になったが、収益は工員のために用い、福利厚生施設はパラダイスのようだったという。また、貧民のために莫大な義捐金を提供した。世の私利私欲なる資本家よソールトの経営を見聞し、大いに反省せよと（『前掲出世美談』）。

(4) 「善を知って行わざるは罪なり」ということ

アメリカのガーフィールド大統領にギトーという弁護士友人がいた。彼は大統領に自分をフランス大使にするよう頼んだ。しかし、大統領は「如何にあなたが学者であってもアメリカ合衆国を代表する大使としてやるわけにはいかない」（回顧八十一年）とアメリカの国益を考え、自分の信念に基づいて断ったので、ボルチモア駅でギトーに銃撃され死去した。まさに身を賭して実行したのである。

4 10年間の留學を終了して帰国、そして政治家を目指す

(1) 教育のあり方について

26年間の議員在任中、教育について法案26と建議11回提案、質問9回している。国家の富強は教育にかかっている。教育の基本は小学校教育にある。

小学校教育の充実を図るには、教員の待遇改善を図り、誰もが貧富に関係なく平等に教育を受けられるようにすると云うのが、根本正の基本的考えで方であった。そして、根本正は教育の3大要素として「教育の発展と青年との関係」、「教育の発展と父兄との関係」、「教育の発展と社会との関係」をあげている。（『茨城の教育』295号茨城県教育協会雑誌・明治41年12月31日）。

(2) 教育の三大要素とは。

1) 教育の発展と青年とは如何に関係あるか。

自分の青年時代は、地方的・個人的なものであり、僧侶・医者・父・祖父などから学んだものである。12歳の時、親戚関係の彰考館総裁豊田天功の家で家僕となり学んだが、士族と平民との身分的区別は厳しく、墓参の時でも下駄は履かず、もし間違っただけで履いたりすれば切り捨てられるような時代であった。そこで、智を磨き、徳を修めるのが第一と考え苦しい境遇の中、僅かな暇を見つけて勉強した。人は何事によらず、あることを為そうと志を立てたならば、直ちに実行する。為すべきでない判断したら直ちに捨てる。これは人間成功の秘訣である。人間は善悪を判断する能力を持っている。

人は他人の厄介になるべきではない。人は他人の力によって為すべきものではない。独立自営、己の力、己の働きによって事に当たるべきである。これは青

年にとって、最も必要だし、確実に守るべきものである。

アメリカでは働く者には金を与えるが、怠ける者には与えない。自分は主人の目の前なら働く、主人がいなければ怠けるということをしなかった。いつも他人より多く働くことを考えた。

そして、「今日において為すべき事は今日なすべし、決して明日に伸ばす事なかれ」、親に孝道を尽くすにおいても同様で、今日為すべきである。孝道は明日にあらず、今日にあり、未来にあらずして、現在にある。人はその日に為そうとしたことはその日に為す。必要なのは忍耐精神である。

お茶の水女子大教授で『国家の品格』を著した藤原正彦先生は、「教育においても生きる力を育むとか、個性の尊重とか美しい言葉であるが、個性の尊重を例に取れば、結局身勝手を助長しただけとしか思えない」と述べている。

藤原先生は日本と同じようにイギリスでも理数科離れが激しいという。科学技術政策のトップの人からその原因を聞かれたので「眞の原因は、我慢力不足」と答えたという。我慢力を失うと理数科離れ、もっと恐ろしい読書離れがおきてくる。子供時代にきちんと「我慢力・忍耐力の基本を育てて初めてそのようなものが身についてくる」と述べており、根本正との共通点が見られる。(藤原正彦『日本のこれからを考える』全連退会報157号)。

根本正の教育観の底流には、貧困・逆境の中でどのような艱難辛苦に遭遇しようが、他人に頼らず自分の力(自助の精神)で、自分の未来を切り開いてゆく忍耐精神の自覚とそれを育てることが根底にあったのだろうか。

2) 教育の発展と父兄とは如何に関係あるか。

児童の教育に当たる者は父兄である。それ故、現在児童を養育している父兄の責任は重い。父兄たるものは一層の注意を払い、教育の発展上多大の影響を与えるのだから、未来も立派になるように努めるべきである。アメリカでは女子が20歳になるまでは、父母が養育する義務がある。つまり、子女を将来の父母として知識と才能を備えるまでは、アメリカの習慣として公立の学校か、私立の学校で教育する責務がある。しかし21歳になれば親の世話にならないものと決まっているから、それ以降は己の力で何事もしなければならぬので、親は金品などの面倒を見る必要がない。このような行き方は良いことなので我が国にも取り入れていきたい。我が国は将来の父母になる女性の教育に冷淡である。子女の教育は重要であるから、国民の知識や関心を高め、世界の国に劣らぬようにする必要がある。子女の教育は一家のみならず、国家のためでもある。教育は男子ばかりでなく女子にも実施すべきである。世界の富強国は皆女子教育を尊ぶ国である。女子教育が盛んになるか否かは、父兄の責任である。

3) 教育の発展と社会は如何なる関係にあるか。

国民教育(小学校教育)は、一部の国民の知識を高めるものではない。町や村によって差があつてはならないし、我が国領土の北から南まで誰もが平等に教育を受けられるのが国民教育の精神である。それが普通であり、これが普及している国は富強である。だから私は第13議会に国民教育授業料全廃建議案とその財政的裏付けである小学校教育費国庫補助法案を提案し成立させた。これは当時の与論でもあつた。国民教育はすでに国家の事業であるから国費を充てるのは当然のことである。

根本正は子どもは我が国の将来を担うものであるから、『国ノ父母』と呼んでいる。従って地域による格差をなくし、教育の機会均等等、子どものある者も子どものない者も協力して教育を支えてゆくことの大切さを述べている。

根本正は最後に・・・

- (1) 青年は「ことを定めたる以上は永久にかへず、如何なる苦痛も忍耐し以て大成せられたい」。
- (2) 父兄は「女子教育には一層力を注がれ我が国の弊風」を打破して欲しい。
- (3) 社会的には「小学校教育は国費を以てする様」尽力されたい。

教育の発展には青年・父兄・社会の三要素が調和して初めて教育は完成すると述べている。これは現代社会にも共通する普遍的真理ではなからうか。

(3) 根本正の功績

未成年者喫煙禁止法・未成年者飲酒禁止法・水郡線の開通・小学校授業料の無料化・高層気象観測所の設置・利根川の治水・村松砂防林の造成・

5. 茨城県政と岩上二郎

(1) 幼少期の岩上二郎

大正2年11月29日、那珂市古徳に父孝太郎、母とくの女4人の末弟として生まれる。父親の厄年に生まれたので、生家の三叉路に捨てられ拾われたという。小学校の頃は虚弱児で欠席も多く余り期待されない存在であったという。

父は昔、民政党系で本家と交互に県会議員を務めた。40数町歩の土地と山林を所有すると共に醤油醸造業、運送業もやり土浦に丸通本社を置き幡谷仙三郎・中野慶吉らと交友関係があったという。かつては白川村などのある県から依頼され囑託村長などとしたという。

(2) 青年期

中学は新設間もない私立の茨城中学へ補欠で入学した。成績・体育なども余りパットしなかった。母は水戸東武館の小沢門下生で北辰一刀流の使い手で、加倉井にいる叔父の所に連れて行き精神訓話や竹刀で剣道の練習をさせたという。学校で剣道の先生から「お前は上達する天分がある」と褒められ、それが動機となり、剣道も勉強も猛烈にやるようになり、剣道初段も取得した。

中学卒業と同時に旧制水戸高等学校を受験したが失敗、翌年挑戦して合格。2年生の時、母親が死亡。その後、京都大学法学部に入学し、在学中下宿していた寺の火災で失火を疑われ、警察に連行されたこともあったという。

昭和15年プリジストンタイヤ(株)に就職。この年歩兵102連隊に入営、一週間後に中国に派遣された。陸軍主計中尉として中国・ベトナム・タイ国を経て、敗戦により昭和21年6月帰国。

昭和22年4月、瓜連町長に当選。菊池牧師と協力し「ナザレ園」創設に協力する。戦後の混乱のさめやらぬ時代で町政での悩みも多く、昭和24年11月29日、キリスト教に救いを求め、菊池牧師と関係の深かったO・D・ピックスラ一氏より洗礼を受けた。

昭和26年キリスト教短期大学講師になり政治学を講義したのが縁となり、

ハレー・ハックス氏の薦めでロサンゼルス近郊のペパダイン大学へ留学のため渡米し地方自治と福祉行政の研究をした。

(3) 昭和34年4月、茨城県知事に初当選

- 農工両全を掲げ、
- ①鹿島地域総合開発
 - ②研究学園都市
 - ③水戸射爆場返還問題（敷地の一部・・・自衛隊3年間使用することを認め返還させる。）
 - ④全国モデルの精神病院の建設（元 友部町）
- ※農工両全 「工」の概念・・・強きもの・・・国家権力・中央集権・大企業を導き手とするもの
「農」の概念・・・弱きもの・・・農林漁業・中小企業・僻地・地方自治体（形態としての農業・農民をさすものではない）

昭和36年6月

アメリカ政府・議会に対し水戸射爆場返還直訴（昭和48年水戸射爆場返還される。）

原子力開発状況、ブラジルにおける本県移住者の視察

昭和38年4月

新農政者の柱として田園都市計画を進める。若者の住める環境を作らなければ農村は崩壊すると考えたのが「田園都市構想」の発端。

イギリスの田園都市協会創設者ハワードの言葉「思うに、整える自治は美しい人格を作り、活ける自治は新たな民風を興す」。農民自身が自らの問題として意識の革命を通し、生活改善や集落の在り方を話し合い、お互いに持てる資金を持ち寄り、計画ができればその具体的実践を県や市町村に要求し、それに基づきそれぞれバックアップして行くという民主的やり方である。この事業は後に農村環境整備事業として取り上げられる。

昭和44年

農業開発事業団、教育財団の設立

鹿島港開港式（10月）

筑波研究学園都市起工式（11月）

昭和46年

茨城県立歴史館建設、重症心身障害児者施設（「あすなろ」）

養護学校の開所、霞ヶ浦の水質浄化、原子力安全協定。

昭和50年4月

茨城県知事引退（昭和34年～4期16年）

6 国政に参画

昭和53年2月 参議院議員の補欠選挙に当選する。（妙子 参議院議員病気で辞任）

昭和55年 二期目の参議院議員に当選

昭和57年11月 科学技術庁政務次官（現文部科学省）

平成元年6月 公文書館法成立に貢献し、ICA（パリ・国際公文書館評議会）から名誉メダルを授与される。

<公文書館法とは>

- (1) 公文書館法制定の動機・背景・・・直接的には徳川光圀の「大日本史編纂事業」(明暦3年着手～明治39年・約250年)からのヒントであるという。光圀の歴史観には「個人的推論を避け、あくまで事実を事実として明らかにしようとする真摯な態度には大いに学ぶべき」であるという。もう一つは直接的には昭和38年から始まった「茨城県史編纂事業」にあるという。『公文書館への道』岩上二郎)。
- (2) ねらい・・・歴史を編纂するというなは、単に過去の事実を羅列し記録しておくことではなく、過去の事実を調べることによって先人の業績の時代的意義を覚り、現在私達が立っている位置を見極めることによって、現状を正しく把握し、私共が未来に処する正しい態度を取りうるよすがとする。『前掲書』)。
- (3) 県史の編纂と資料の保存は車の両輪の関係にある。

※公文書館法第3条 国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等及び利用に関し、適切な処置を講ずる責務を有する。」

7 根本正と岩上二郎の共通点

- (1) 根本・岩上両氏ともクリスチャンである。前者は横浜の住吉教会でノックス派牧師から、岩上はO・D・ピックスラー牧師(恐らくペパダイン大学とおもわれる)から洗礼を受けている。
- (2) キリスト教の信仰を背景に自己犠牲の精神で弱者の立場にたち、根本正はキリスト教徒として矯風会の精神を共有し、徳子婦人と共に禁酒、公娼(売春宿)の廃止や足尾鉍毒事件の田中正造を支援した。
岩上二郎はペパダイン大学で福祉を学び、菊池牧師にはかり福祉施設ナザレ園(老人ホーム)の創設、またコロニー・あすなる・ひばり学園(身障児)・筑波学園・友愛学園の創設に取り組んだ。
- (3) いずれも水戸学の影響を受けている。
- (4) 根本正は明治維新の混乱期に、岩上は戦後の混乱期に渡米し、前者は庭掃除・車洗い・夏季休暇中はアルバイト、後者は庭師・皿洗いをしながら生活を切り詰め苦学した。
- (5) 政治家としてデビューしたのは、根本(衆議院・46歳5ヶ月)、岩上(茨城県知事・45歳5ヶ月)であった。

8 まとめ

今の青年達は海外に出るのを嫌い、留学を希望する生徒は減少しているという。これには少子高齢化社会で親が子供を海外に出すのを好まないという風潮もある。しかし、我が国の現状を考えると産業の空洞化が進み、就職するにしても金融・経済・労働の自由化の進む国際社会で生き残るためには、海外に出なければならぬ状況が年々高くなっている。海外に赴任しても一日も早く日本に戻ることを希望している青年が多いという。根本正は明治維新の混乱期に東京で昼間は同人社で勉強、夜は人力車を引いて学費・生活費・留学費を稼ぎ

ながら苦学した。英語を学ぶため外国人に積極的に話しかけ、その熱意が認められ、法曹家バラスト一家で働き、その陰日向なく仕事を成し遂げる人柄が認められ、バラスト氏の好意で小・中学校へ入学を認められて、苦学しながら卒業した。パーモンド大学はバラスト氏の紹介でアメリカの鉄道王ピリングス氏から学費の援助を受け卒業し帰国した。根本の生き方には自分の未来は自分で切り開くという決意、そのためには如何なる艱難辛苦にも耐える。そうすれば未来は必ず開けるという体験的教育観が根底にあるように思う。

岩上二郎にしても戦後の混乱期に家族を残し、先進国のアメリカに学ぶため彼の地に渡航し、苦学をしながら地方自治・福祉の研究をして帰国した。

そして、それ活かすために瓜連町長、知事に当選してからは数々の仕事をされたが、特筆すべきなのは鹿島開発と「コロニーあすなろ」ではないかといわれる。鹿島開発というと農工両全と云われ、幻に終わったという批判はあるが必ずしもそうではなく、貧しい地域の開発を目指した弱者救済の視点があったのではなかろうか。

根本正・岩上二郎の活動した時代はそれぞれ異なるが、当時の外国留学生は相当な困難があったろうと思われる。そのような状況の中で我が国の政治に生かそうとしたと云えよう。

特に根本正の場合は明治維新の混乱期に議会政治の基本である「公平選挙法」を著したり、「米国民論」、「欧米貧兒出世美談」などを翻訳したりして啓蒙活動につとめ「文明開化の新風」を我が国にもたらした1人である。

内向きといわれる青年達に望むことは、根本正・岩上二郎が大変な時代に海外に出て、いろいろな困難を乗り越えて国際的経験を積み、国際的視野を養い、ヒューマンイズムの精神でわが国に数々の功績をもたらしたように、これからの青年達に海外に目を向け大志を抱き、激動する国際社会での活躍を期待したい。

(参考) 根本正顕彰会會澤会長講演要旨

(参考) 根本正が学んだ三叉学会、同人社、へボン塾、と明治六大教育者

1. 三叉学会

福沢諭吉の慶応義塾と並び称される洋学塾の双璧である。

学んだ人達

- 東郷平八郎 1848年(弘化4年)～1934年(昭和9年)86歳没
薩摩藩士、海軍軍人、元帥海軍大将
- 原敬 1856年(安政3年)～1921年(大正10年)65歳没
山手線大塚駅員 中岡良一により、東京駅(現、丸の内南口)で暗殺される。
立憲政友会第3代総裁、第19代内閣総理大臣
- 平沼騏一郎 1867年(慶応3年)～1952年(昭和27年)85歳没。第35代内閣総理大臣
- 大槻文彦 1847年(弘化3年)～1928年(昭和3年)81歳没
日本初の近代的国語辞典「言海」の編纂者、儒学者、大槻盤溪の3男

2. 同人社

1837年設立、慶応義塾、攻玉塾と並んで3代義塾とまで言われたが、次第に学生数が減少して経営難となり、1887年(明治20年)廃止となった。

学んだ人達

- 三島弥太郎 日本銀行総裁
- 池辺三山 ジャーナリスト
- 池田藤八郎 衆議院議員
- 井口省吾 陸軍大将、陸大校長
- 古島一雄 ジャーナリスト、貴族院議員
- 長谷川如是閑 ジャーナリスト

3. へボン塾

伝道の使命に燃えて来日したへボン博士夫妻が創立した我が国最初の英語塾で、現在の「明治学院」である。

学んだ人達

- 高橋是清 大蔵大臣、第20代総理大臣
- 大村益次郎 医師、西洋学者、兵学者
- 益田孝 三井物産創始者
- 林董 外務大臣、逓信大臣
- 安藤太郎 住友銀行副頭取、住友不動産社長、会長、相談役、日本禁酒同盟会長
- 三宅秀 東京大学医学部長
- 沼間守一 東京横浜毎日新聞社長、改進黨党首
- 鈴木知雄 日本銀行出納局長
- 佐藤百太郎 百貨店経営
- 大塚熊吉 丸全番頭

4. 明治六大教育者

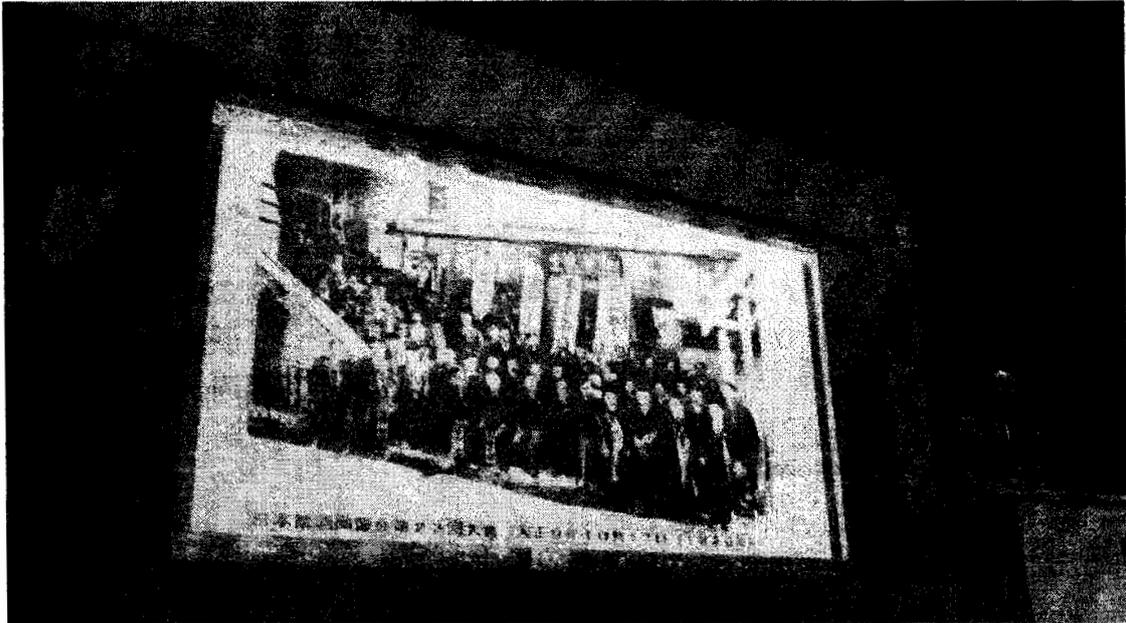
- 大木喬任——文部卿として近代的な学制を制定
- 近藤真琴——攻玉塾を創立、主に数学、工学、航海術の分野で活躍
- 中村正直——同人社を設立、西国立志編など多くの翻訳書を発刊した
- 新島襄——同志社を創立、英語、キリストの分野で多くの逸材を教育
- 福沢諭吉——慶応義塾を創立、法学、経済学を中心に幅広い思想家として著名
- 森有礼——明六社の発起代表人、文部大臣として学制改革を実施

平成25年度根本正顕彰フェスティバル

平成25年9月29日(日)

初の試み、那珂市外での開催

水郡線全通80周年記念として大子町で

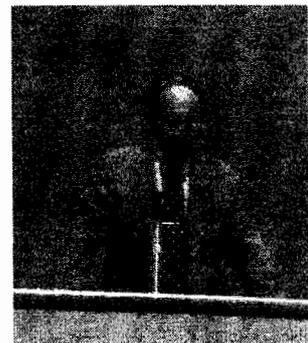


会場は大子町文化福祉会館「まいん」大ホール。開催に伴う後援は那珂市・那珂市教育委員会、大子町・大子町教育委員会からいただいた。広報活動は、大子町・那珂市の広報誌「お知らせ版」、マスコミ各社、すいぐん1000など。水郡線沿線の埴町・矢祭町・常陸大宮市、JR東日本株式会社大子駅への案内と十分な態勢を取った。

開催式典には大子町から成井重美副町長・都築積教育長が、那珂市からは海野徹市長が来賓として出席、成井・海野両氏から歓迎と温かい励ましのごあいさつをいただいた(写真:バックスクリーンの映像は「日本禁酒同盟第23回大会(大正9年10月17日)」)。

内容は、第1部が映像で見る「根本正の生涯」。鈴木正矩理事が編集したもので、これまでの映像を簡潔に要点をまとめて編修したもの。大きなスクリーンで迫力ある映像は参加者を魅了するのに十分であった。

第2部の講演ははじめに會澤義雄会長が「青少年健全育成の精神と業績」と題して根本正が刻苦勉勵の末に渡米して得た教訓を生かして、日本の青年に広い視野と自立の精神を期待した背景と内容を丁寧に紹介。人柄を十分に理解していただいたと思える。



② 仲田義一副会長は、「水郡線敷設事業の功績」と題し、大子町民は水郡線の敷設・大子駅設置には大きな期待を掛け、実現の暁には戦前・戦後の2回も根本正の胸像を建立する程感謝の念が強かった。その意気込みを再度思い起こして欲しいと熱弁を振るった。



③ 最後に地元を代表して野内正美元茨城県立大子清流高校校長が「水郡線開通と大子町の人々」と題し、大子町の敷設陳情書、根本正の尽力および開通式での祝辞、開通までの木澤静の記録などを紹介しながら水郡線開通がもたらした恩恵に対する町民の喜びを伝えてくれた。



- ④ 質疑応答では、以下のようなやり取りがあった。
- ア) 大子の住民ではあるが義務教育の中で大子駅と根本正との関係を教えられてこなかった。教育の在り方も考え直して欲しい。
 - イ) 根本正の人物をもっと深く知りたい。今日において深く学ぶ必要のある人物ではないか。
 - ウ) 水郡線が常磐線を利用して勝田・上菅谷のルートが計画されたと聞くが、何故に実現しなかったのか。(当時の政治情勢および戦時が風雲急を告げる状況となったことなどがある)
 - エ) 顕彰会の活動を初めて知る事が出来た。今後とも更なる発展を期待したい。大子町でもさらに研修していきたい。

~~~~~  
理事会に於いては開催の感想として次のような成果や課題が話し合われた。

- ① 参加者は予想より少なかったが大子町で開催した意義は大きかった。大ホールであったため非常に少ないとの印象であったが、実質62名の参加を得ていることは興味関心を起こしたと云える。

一方、時期がリンゴの収穫期などと重なった点はあるが、町全体としての関心は十分ではないのではないかと云える。

組織として動員できる場合はかなりの参加者も見込めるが、量で行くか質で行くかの方向性は確認しておく必要がある。『茨城新聞』では比較的大きく取り上げてくれた。

多数の参加者を求めつつ、開催することに意義のあることを再認識して置きたい。

- ② 大子町観光ボランティア団体から研修会への講師派遣要請があったことは、それだけ開催した意義があったことになる。
- ③ 大子町・教育委員会からも大子駅と根本正との関係を学ばなければならないことを改めて認識したとの感想が届いている。
- ④ 野内正美講師からも意義あるフェスティバルであったとの讃辞が届いている。当時敷設運動に尽力された孫たちが多く参加していた意義は大きいとも。
- ⑤ 広報・PRは大子町は勿論マスコミ各紙が報じてくれたのでこれ以上のことはなかった。広報の方法は十分であったと考えられる。
- ⑥ 内容について  
映像、三本の講演とも内容が整理されていて「根本正の生き方および水郡線敷設運動」が十分に訴えられたと思う。
- ⑦ 時期について、  
顕彰会全体として、行事の開催時期を再検討する必要があるだろう。
- ⑧ 今後について  
市外で開催することは継続するが、一回は地元菅谷地区、それも市立図書館講座室で開催してみてもどうか。



(『茨城新聞』が報じたフェスティバル)

# 平成25年度「根本正ゆかりの地を訪ねる旅」実施報告

期日 平成25年10月27日(日) 7.00出発～17.05帰着 参加者 44名(うち会員26名)  
行き先 谷中霊園、浅草一浅草寺、雷門、仲見世、根津神社、六義園  
事前調査 仲田昭一事務局長、小林茂雄理事  
車内講話 車内司会進行(小林茂雄理事)、日程、顕彰会の概要、活動状況(仲田昭一事務局長)  
六義園のビデオ放映と説明(鈴木正矩理事)、谷中墓地と根本正ゆかりの人物  
— 箕作秋坪、中村正直、その他の人物 — 佐藤泰然、佐藤尚中、佐藤進、林董など  
(會澤義雄会長)、浅草について(仲田義一副会長)、根津神社(山田正巳理事)

現地誘導、案内 會澤義雄会長、仲田昭一事務局長、小林茂雄理事  
現地での説明 會澤義雄会長、仲田昭一事務局長  
記録、録音 鈴木正矩理事  
会計、報告 横地富子理事  
お礼と終了挨拶 仲田義一副会長  
行程と時間 出発 那珂中央公民館前 7.30～上野谷中墓地(9.40～10.40)～  
浅草浅草寺、雷門、仲見世、(昼1 雷門 三定)(11.00～13.10)～  
根津神社(13.40～14.10)～六義園(14.20～15.20)～帰着(17.05)

## 中村正直と根本正

中村正直は明治の六大教育者の一人であり、同人社創立者。また福沢諭吉、森有礼、西周らと明六社を結成した。根本正は『西国立志編』に感動して同人社に入門し、正直の教えを受け、キリスト教を信仰するようになった。正は『回顧八十一年』にキリスト教との出会いを感謝していると書いている。

## 佐藤泰然

長崎で蘭方医学を学ぶ。1838年(天保9)江戸薬研堀に蘭方医学塾(和田塾)を開く。1843年(天保14)佐倉に転居し、医学塾順天堂を開設。多くの門人(佐藤尚中、松本良順、関寛斎、佐々木東洋など)を育てた。

## 佐藤尚中

泰然の養嗣子となり、順天堂を継ぐ。1873年(明治6)、下谷鎌堀町(現秋葉原)に順天堂を設立。1875年(明治8)、湯島に順天堂医院を設立。初代院長。

## 佐藤進

常陸国太田内堀で醸造業、高和清兵衛の長男として生まれる。尚中の養継子となり、順天堂を継ぐ。順天堂医院第二代院長。(墓地は吉祥寺にある。)

## 箕作秋坪と根本正

根本正は1871年(明治4)4年間勤めていた水戸藩南御郡方役人を辞めて再び江戸に向かい、箕作秋坪の三叉塾(英学塾)に入門した。三叉塾は、個人講義が原則のため順番待ちが大変だったようで、1年ぐらいで辞して中村正直の同人社に移った。根本正は単身で江戸に出て生活費や学費を稼がなくてはならない厳しい苦学生活の中で1日がかりの授業は時間の無駄が多く両立を図るのは大変だったと推察できる。そのため三叉塾を1年ほどでやめ中村正直の同人社に入門したと思われる。

谷中墓地で他に見学した所

慶喜の墓地、長谷川一夫の墓地、五重塔跡地

## 浅草寺・雷門・仲見世

別添資料参照願います。

## 根津神社

別添資料参照願います。

## 六義園

五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった、川越藩主・柳沢吉保が元禄15(1702)年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名園である。六義園は池をめぐる園路を歩きながら、移り変わる景色を楽しめる繊細で温和な日本庭園である。

江戸時代の大名庭園の中でも代表的なもので、明治時代に入って、三菱の創業者である岩崎彌太郎の別邸となった。その後、明治13(1938)年に岩崎家より東京市(都)に寄付され、明治28(1953)年に国の特別名勝に指定された貴重な文化財である。

## 参加者の声

① 一昨年、顕彰会の会員になりました。いろいろと根本正さんを知っていくと興味が湧き

人物が好きになってきました。訪ねる旅の行き先も良かったですし、楽しかったです。いままでに行った先も訪ねたいです。

② ゆかりの地を訪ねる旅に初参加しました。歴史もあり、しっかりした会だと感じました。那珂市の広報「なか」に参加者募集記事掲載できないのでは、運営上、要検討である。

③ 会員になって5年がたちました。今回の行き先、コースとも良かったです。役員の皆様様の綿密な計画、ご努力に感謝いたします。新会員もあり、今までに行った先でも、再度行ってほしいと思います。

慶喜の墓地前にて、説明ボランティアをしていた方に聞いたら根本正について知らなかった。これから、勉強したいと云っていた。ボランティアの説明がすばらしかった。

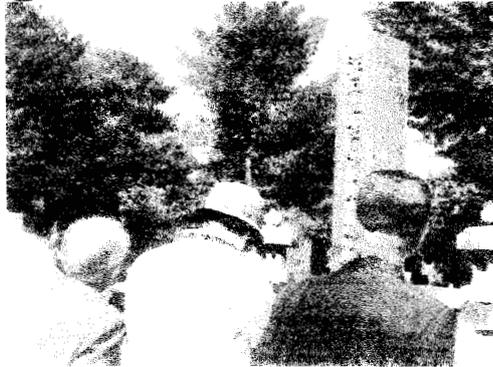
④ 役員の皆様方の綿密な計画、活動に感謝しています。

行き先での時間があと少し長ければゆっくりして、良いのではと思います。

⑤ 今日のゆかりの地を訪ねる旅、非常に良かったです。根本正について、子供の頃はよく知らなかったが、会員になり良く知ることができた。働きながら、苦学した勉強心には感心しております。

⑥ ゆかりの地を訪ねる旅の行き先については、前に行った先でも選定対象に加えてよいと思います。(例)横利根關門・伊能忠敬屋敷跡・水郡線、塙方面・など。

### スナップ写真など



(佐藤尚中の墓地前)



(英作秋坪の墓地前)



(淺草淺草寺)



(根津神社)



中村正直

### 編集後記

心配していた台風は海上に逸れ、良い天気にも恵まれた一日でした。多数の参加者があり、スケジュールとおりに進み、無事17時5分に帰着できました。ご協力ありがとうございました。役員一同感謝申し上げます。皆様からいただいた声をこれからの会の運営、活動の参考にしていきたいと考えております。

## 浅草寺について

時は飛鳥時代、推古天皇36年(628)3月18日の早朝、檜前浜成・竹成(ひのくまのはまなり・たけなり)の兄弟が江戸浦(隅田川)に漁撈(ぎよろう)中、はからずも一鉢の観音さまのご尊像を感得(かんとく)した。郷司(ごうじ)土師中知(はじのなかとも:名前には諸説あり)はこれを拝し、聖観世音菩薩さまであることを知り深く帰依(きえ)し、その後出家し、自宅を改めて寺となし、礼拝(らいはい)供養に生涯を捧げた。

大化元年(645)、勝海上人(しょうかいしょうにん)がこの地においでになり、観音堂を建立し、夢告によりご本尊をご秘仏と定められ、以来今日までこの伝法(でんぼう)の掟は厳守されている。

広漠とした武蔵野の一画、東京湾の入江の一漁村にすぎなかった浅草は参拝の信徒が増すにつれ発展し、平安初期には、慈覚大師円仁(じかくだいしえんにん)さま(794~864、浅草寺中興開山・比叡山天台座主3世)が来山され、お前立のご本尊を謹刻された。

鎌倉時代に將軍の篤い帰依を受けた浅草寺は、次第に外護者として歴史上有名な武将らの信仰をも集め、伽藍の荘厳はいよいよ増した。江戸時代の初め、徳川家康公によって幕府の祈願所と定められてからは、堂塔の威容さらに整い、いわゆる江戸文化の中心として、大きく繁栄したのである。かくして都内最古の寺院である浅草寺は、「浅草観音」の名称で全国的にあらゆる階層の人達に親しまれ、年間約3000万人もの参詣者がおとずれる、民衆信仰の中心地となっている。

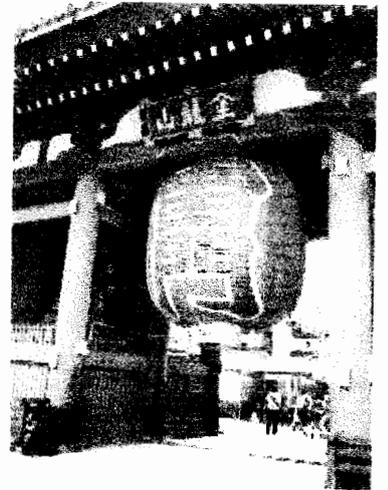


本尊感得の図(「浅草寺寛文縁起絵巻」より)

## 雷門

表参道入口の門。切妻造の八脚門で向かって右の間に風神像、左の間に雷神像を安置することから正式には「風雷神門」というが「雷門」の通称で通っている。慶応元年(1865年)に焼失後、長らく仮設の門が建てられていたが昭和35年(1960年)、約1世紀ぶりに鉄筋コンクリート造で再建された。実業家・松下幸之助が浅草観音に祈願して病氣平癒した報恩のために寄進したものである。門内には松下電器産業(現パナソニック)寄贈の大提灯がある。三社祭の時と台風到来の時だけ提灯が畳まれる。

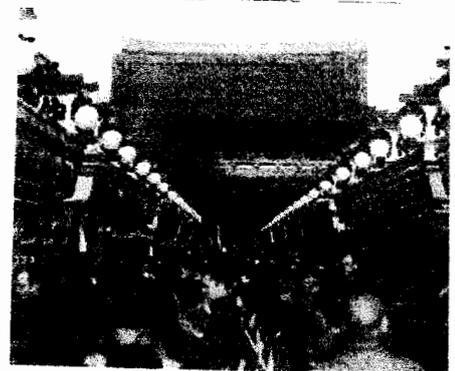
風雷神神像は頭部のみが古く、体部は慶応元年(1865年)の火災で焼失後、明治7年(1874年)に補作。昭和35年(1960年)の門再建時に補修と彩色が加えられている。門の背面の間には、「金龍・天龍」の像を安置する。西の金龍(女神)は仏師・菅原安男、東の天龍(男神)は彫刻家・平櫛田中の作で、昭和53年(1978年)に奉納されたものである。



雷門

## 仲見世

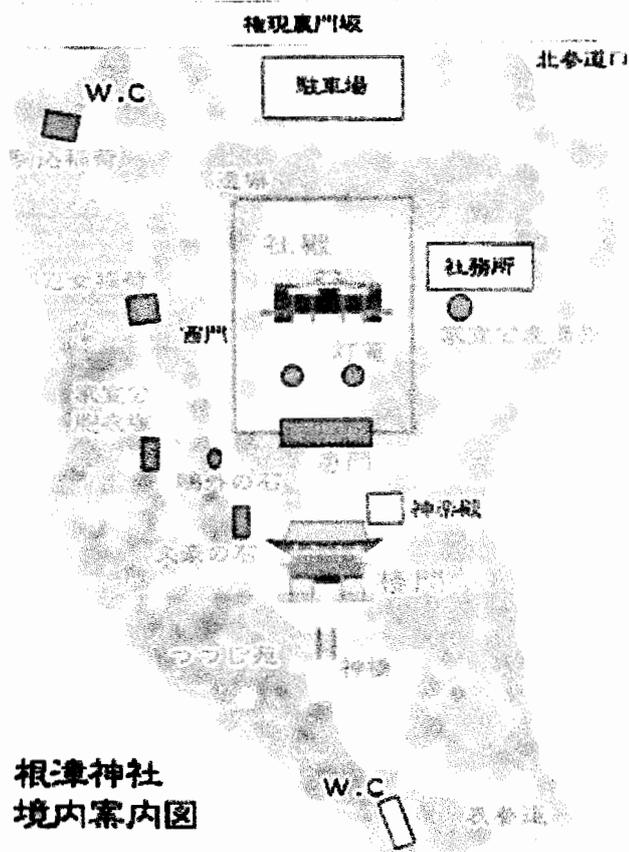
雷門から宝蔵門に至る表参道の両側にはみやげ物、菓子などを売る商店が立ち並び、「仲見世」と呼ばれている。商店は東側に54店、西側に35店を数える。寺院建築風の外観を持つ店舗は、関東大震災による被災後、大正14年(1925年)に鉄筋コンクリート造で再建されたものである。



仲見世通り

## 境内のご案内

地図の赤字をクリックすると、詳しい説明が表示されます



## ご由緒

根津神社は今から千九百年余の昔、日本武尊が千駄木の地に創祀したと伝えられる古社で、文明年間には太田道灌が社殿を奉建している。

江戸時代五代将軍徳川綱吉は世継が定まった際に現在の社殿を奉建、千駄木の旧社地より御遷座した。

明治維新には、明治天皇御東幸にあたり勅使を遣わされ、国家安泰の御祈願を修められる等、古来御神威高い名社である。

## ○御祭神

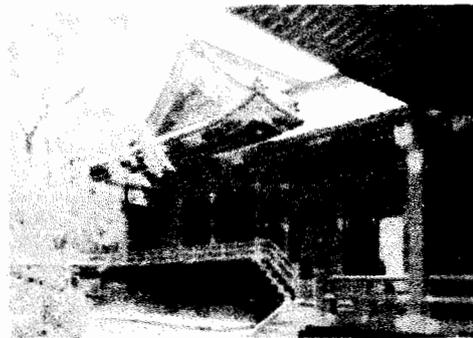
須佐之男命・大山咋命・菅田別命 ○相殿 大国主命・菅原道真公

## ○御社殿

宝永二年五代将軍綱吉は兄綱重の子綱豊(六代家宣)を養嗣子に定めると、氏神根津神社にその屋敷地を献納、世に天下普請と言われる大造営を行なった。翌年(1706)完成した権現造りの本殿・幣殿・拝殿・唐門・西門・透塀・楼門の全てが欠けずに現存し、国の重要文化財に指定されている。

画像が表示されない場合は、こちらからお選びください。

御由緒 表参道 楼門 唐門 社殿 透塀 灯籠  
神橋 乙女稻荷 駒込稻荷 つづじ苑 家宣公産湯  
井 家宣公胞衣塚 文豪の石 鷗外の石



## ○例祭(九月二十一日)

六代将軍家宣は幕制をもって当社の祭礼を定め、正徳四年江戸全町より山車を出し、俗に天下祭と呼ばれる壮大な祭礼を執行した。現存する大神輿三基は、この時家宣が奉納したものである。同じ格式による山王祭、神田祭とあわせ江戸の三大祭と言われている。

## 根津神社

〒113-0031 東京都文京区根津1-28-9  
tel 03-3822-0753

## 平成25年那珂市「中央公民館まつり」に展示で参加

(11月22日から24日)

平成25年度「公民館まつり」に今年も参加しました。研究テーマは根本正が訳述した『欧米貧児出世美談』の紹介です。根本正はアメリカに留学して次の4つのことを体得しました。

- ① 神はかたよらず                      ② 受くるより与うることは幸いなり
- ③ 善を知りて行わざるは罪なり      ④ 貧は富をつくる

この中の④「貧は富をつくる」の背景となる「貧者」なるが故に「奮励努力」して自分の中の力を発揮し、仕事を成し遂げて行く人々に感銘した根本正の内面をも紹介しようとしたものです。『欧米貧児出世美談』には22名が取りあげられていますが、その中から顕彰会の役員・理事が一人ずつ次のように担当してまとめあげました。

『欧米貧児出世美談』訳述の背景

アメリカ合衆国の大統領ジェームズ・ガーフィールド

イギリス国の物理学者マイケル・ファラデー

イギリス国の製鋼家サー・ヘンリー・ベセマー

イギリス国の発明家ジェームス・ワット

アメリカ合衆国の大統領アブラハム・リコルトン (リンカーン)

アメリカ合衆国の伝道師ドワイト・エル・ムーディー

フランス国の政治家レオン・ガンベッタ

(會澤義雄会長)

(仲田義一副会長)

(鈴木正矩理事)

(會澤義雄会長)

(小林茂雄理事)

(山田正巳理事)

(仲田昭一理事)

(横地富子理事)

※ 鈴木正矩理事作成のDVDも簡潔にわかりやすく編集されていて好評でした。



『欧米貧児出世美談』の表紙



秋山和衛教育長や木村静枝市議も来館



DVD観賞者と展示を読む人たち



来館者と意見交換する會澤会長と山田理事

※ 「那珂市からこのように優れた人物が出ていることをもっと多くの人たちに知ってほしい。」が来館者の一致した声。顕彰会の「踏まれても云々」の粘り強い活動が期待されています。

# 根本正顕彰会16年の歩み(略表)

| 年度                                                                                                                     | 事項                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成9年度                                                                                                                  | 顕彰会設立総会                                                                                                                             |
| 平成10年度                                                                                                                 | 「根本正先生生誕地」碑建立<br>展示会 なかないきへスタ「根本正の素顔」<br>第1回 ゆかりの地を訪ねる旅「東京・青山霊園ほか」                                                                  |
| 平成11年度                                                                                                                 | 展示会「根本正の前半生—衆議院議員になるまで」<br>第2回 ゆかりの地を訪ねる旅「米国・パーモンド大学ほか」                                                                             |
| 平成12年度                                                                                                                 | 展示会 第1回那珂町文化祭「政治家根本正の活動」<br>「根本正をめぐる政治家群像」                                                                                          |
| 平成13年度                                                                                                                 | 根本正生誕150周年事業(中央公民館)<br>記念式典・シンポジウム・顕彰碑建立。資料展示<br>記念誌「根本正の生涯」・マンガ「根本正の生涯」発行<br>ビデオ制作「根本正の生涯」・「不屈の政治家根本正」<br>展示会 第2回那珂町文化祭「根本正と今日的課題」 |
| 平成14年度                                                                                                                 | 展示会 第3回那珂町文化祭「根本正と未成年者喫煙禁止法」<br>第3回 ゆかりの地を訪ねる旅「水郡線・塙方面」                                                                             |
| 平成15年度                                                                                                                 | 展示会「根本正没後70年記念」(県立図書館)<br>展示会 第4回那珂町文化祭「根本正と未成年者飲酒禁止法」<br>第4回 ゆかりの地を訪ねる旅「里美村豊田天功関係・那珂町」                                             |
| 平成16年度                                                                                                                 | 展示会「根本正の精神と業績」(茨城女子短期大学)<br>展示会 第5回那珂町文化祭「女性の地位向上と根本正・徳子夫人」<br>第5回 ゆかりの地を訪ねる旅「ひたちなか市・つくば市」                                          |
| 平成17年度                                                                                                                 | ブラジル県人会との交流(中央公民館・根本生家・墓所)<br>第1回 公民館まつり 2005「根本正と教育・禁煙」<br>第6回 ゆかりの地を訪ねる旅「東海村方面」                                                   |
| 平成18年度                                                                                                                 | 「まなびピア2006いばらき」への参加<br>(笠松運動公園・体験教室、県立図書館・シンポジウム)<br>展示会 第2回公民館まつり 2006「水郡線全通まで」<br>第7回 ゆかりの地を訪ねる旅「横利根閘門・佐原市」                       |
| 平成19年度                                                                                                                 | 展示会 第3回公民館まつり 2007<br>「水郡線・未成年者禁酒禁煙・10周年の歩み」<br>第8回 ゆかりの地を訪ねる旅「横浜市、横浜指路教会ほか」                                                        |
| 平成20年度                                                                                                                 | 『不屈の政治家根本正伝』刊行(H.20.7月)<br>第9回 ゆかりの地を訪ねる旅(高萩市方面)<br>展示会 第4回公民館まつり 2008                                                              |
| 平成21年度                                                                                                                 | 「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターごだい)<br>第10回 ゆかりの地を訪ねる旅「東京・青山霊園」<br>展示会 第5回公民館まつり 2009(根本正と高層気象観測所)                                   |
| 平成22年度                                                                                                                 | 「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターよしの)<br>第11回 ゆかりの地を訪ねる旅「田中正造記念館(舘林市)ほか」<br>展示会 第6回公民館まつり 2008                                         |
| 平成23年度                                                                                                                 | 「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターよこぼり)<br>第12回 ゆかりの地を訪ねる旅(東京・憲政記念館、芝増上寺ほか)<br>展示会 第7回公民館まつり 2011(へボン塾で学んだ人達)                           |
| 平成24年度                                                                                                                 | 「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市瓜連 らぼーる)<br>第13回 ゆかりの地を訪ねる旅(横浜方面)<br>展示会 第8回公民館まつり 2012(根本正とアメリカ留学)                                            |
| 平成25年度                                                                                                                 | 「根本正」顕彰フェスティバル(会場 大子町文化福祉会「まいん」)<br>第14回 ゆかりの地を訪ねる旅(東京 谷中墓地他)<br>展示会 第9回公民館まつり 2013(欧米貧児出世美談)                                       |
| 会員92名(平成25年4月1日現在)。年間活動状況——公開講演会 1回、公開講座 2回、<br>公開フェスティバル 1回(平成24年度は4回)、公民館まつり展示 1回、ゆかりの地を訪ねる旅<br>『会報』発行 3回。 ホームページ開設。 |                                                                                                                                     |

# 『欧米貧兒出世美談』を發刊した背景

この本は明治36に根本正が東京の教文社から翻訳し發刊。緒言の中で根本正は会津侯と山崎闇齋との対話を取り上げている。会津侯が闇齋に先生の最も楽しいと思うのは何ですかと尋ねると「三つの楽しみ（喜び）」があると次のように答えている。

- 一つは万物の靈長たる人間に生まれたこと
- 二つは書物を読んで道を学ぶことが出来ること
- 三つは貧賤の家に生まれたこと

会津侯に貧賤の家に生まれたことを楽しむ理由を尋ねられると次のように話をされている。

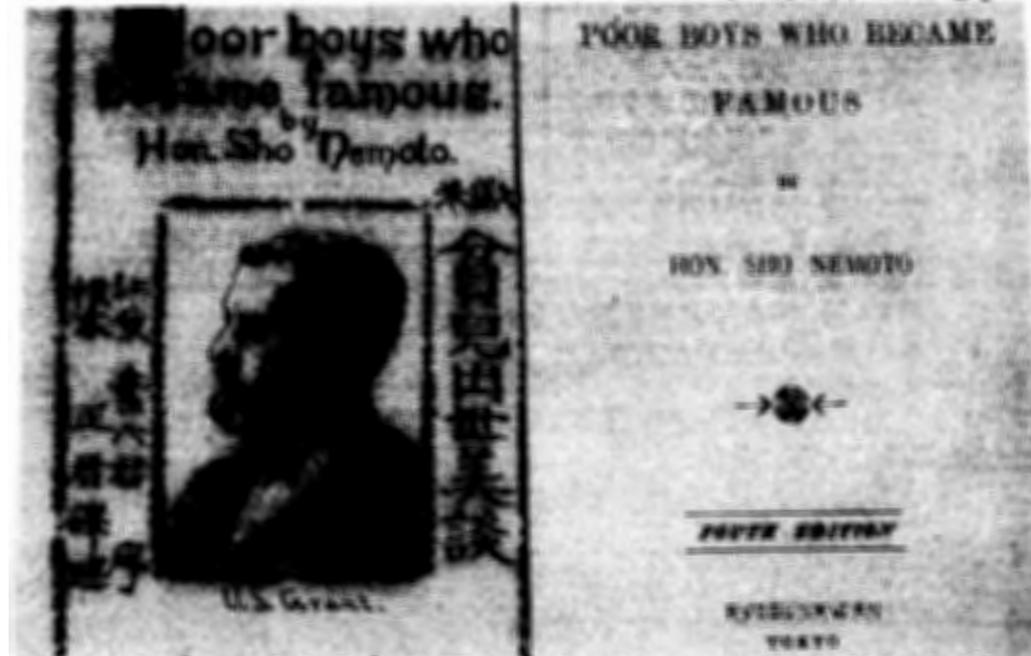
**(1) 富貴の家に生まれた人**…金殿玉楼（御殿のような家）の中で育てられ、世の中の艱難辛苦を知らず、婦女子が絶えず付き添い生活するので柔弱な性質になり、武芸や文芸の教養なく、いたずらに酒色に溺れ、一生を遊情放逸に過ごしてしまう。

これに対し**(2) 貧賤の家に生まれた人**…衣食の儉約・人事の辛酸が解っているので人としての道を聞き、武芸・学芸を習い、徳や知識を身につけ、一家を治め世のためになるので優劣は明白である。社会發展の原動力になり、美名を萬世に残すのは古今東西を通じ貧困窮乏の中で身を立てた人である。富貴の家に生まれた人で大事業を成功させた人は稀である。

## ふまれても根強く忍べ磨芝の

### やがて花咲く春をこそまで

成功の秘訣は勤勉忍耐の氣力と百折不撓の精神にある。この氣力を養い、この精神を錬磨する機会には貧賤の家に生まれた青年の専有物である。この本に取り上げられた人は貧困逆境に踏みつけられながらその困難を克服し成功した人達である。奮起し成功の資とされるならば、著者の栄のみならず、多くの青年の生き方の参考になるのではないかと考え發刊したと。



## 歐米貧兒出世美談 目次

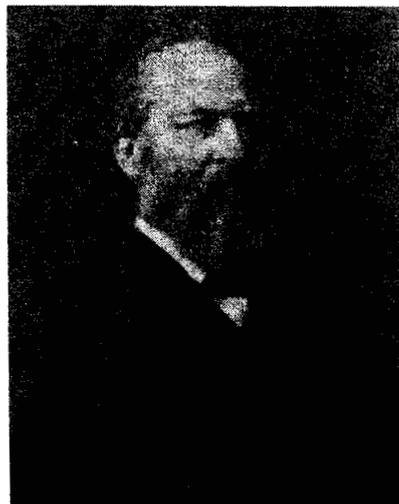
- |    |                  |        |
|----|------------------|--------|
| 1  | ジェームス、エー、ガーフィールド | (政治家)  |
| 2  | ジョージ、ピーホデー       | (商人)   |
| 3  | ベーヤード、テーラー       | (旅行者)  |
| 4  | ギシップ、ガルバディ       | (愛国者)  |
| 5  | マイケル、ファラデー       | (理学者)  |
| 6  | サー、タイタス、ソールト     | (慈善家)  |
| 7  | サー、ヘンリー、ベセマー     | (製鋼家)  |
| 8  | デヴィッド、ジー、ファラガット  | (出師提督) |
| 9  | ウィリアム、ロイド、ガリソン   | (改革者)  |
| 10 | ジーン、パウル、リヒテル     | (小説家)  |
| 11 | ジェームス、ワット        | (発明家)  |
| 12 | バルテル、ソルワーゼン      | (彫刻家)  |
| 13 | ホーレーシ、グリーンリー     | (出版業)  |
| 14 | サー、ジョサイア、メーソン    | (製造家)  |
| 15 | アブラハム、リンコルン      | (大統領)  |
| 16 | フィリップ、ヘンリー、シェリダン | (軍人)   |
| 17 | ジョーセフ、マリー、ジャカー   | (絹工業家) |
| 18 | エズラ、コーネル         | (機械師)  |
| 19 | ドワイト、エル、ムーディ     | (伝道師)  |
| 20 | レオン、ガンベッタ        | (政治家)  |
| 21 | ジェン、U.S.グラント     | (軍人)   |
| 22 | ウィリアム、イー、グラッドストン | (成功ノ辞) |

# ジェームズ・ガーフィールド (第20代米国大統領)

## 1 生い立ち

1831年11月19日合衆国オハイオ州モアランド・ヒルズの丸太小屋で、父アブラハム・母エライザの2男として生まれた。3歳の時、父は病歿し、母は5人の子供を女手一つで農業をしながら大変苦勞して育てた。長兄は11歳の春より母を扶け農事に励んだが、生活は苦しく母は子供たちのために糜食を続け、一日一食の時も珍しくなかった。

ガーフィールドは母と兄の慈愛により、12歳まで学校へ通う。その後、母を扶け農事に出精、余暇があれば学問まなこ、また大工の手伝いなど誠実に働いた。さらに家のために樵夫や水夫などの仕事にも挑戦した。



## 2 学校時代

18歳の時、老牧師に英邁の資性を見込まれ学問への道を勧められる。母も喜んで学費を調べ応援する。彼は中学・高等中学とずばぬけた成績で、その人柄は学生・教師の誰からも愛された。また、彼は学僕として報鐘役・校内掃除など一日も休まず勤めた。大学は名門ウィリアム大学(総長ホプキンス)より入学を乞われて入る。在学満2年にして1856年、最優等の成績で卒業する。

## 3 上院議員から大統領へ

1859年、28歳で推されてオハイオ州上院議員となる。1861年より南北戦争の間、少将として合衆国陸軍に勤務する。1863年、共和党員として下院議員に選出された。1880年11月、大統領改選に際し、ガーフィールドは現大統領ヘースを推し応援したが、民衆はガーフィールドを選出した。1881年3月1日第20代大統領に就任した。

## 4 暗殺

しかし、就任4カ月後の7月2日午前9時、母校ウィリアム大学の卒業式に臨むため秘書を随えてバルチモア停車場に着いたところ銃撃された。犯人はガーフィールドの知人で親友のよしみを以てしかるべきポストに就けるよう頼み込んだが、ガーフィールドは私情におぼれることなく、これを不適任として断った。それを怨んでの犯行であった。その後、80日間にわたる闘病生活の沈着、忍耐、勇氣は世界中に報道された。しかし、不幸にして49歳で死去した。



根本正は、この事件からアメリカ人の「公正さ」を学んだ。この訳述書の筆頭にガーフィールドを掲げたことは、正がいかに彼に心酔していたかを示している。

# マイケルファラデー (物理学者)



- 1791.09.22 英国イングランドサリ州ニューイントンの貧しい鍛冶屋の  
6人兄弟の次男として誕生。
- 1801. 高度成長でインフレ加速. 一家は生活保護を受ける
- 1805.10. 小学校に入ることが出来ず、製本屋リボアの店に年季  
奉公人として雇用 (13歳)。昼間は勤労、夜に勉強。
- 1812.02. 王立研究所でH・デーヴィー卿の講演を聴講
- 1812.10. 年季奉公終了し、ド・ラ・ロッシュの店に移る
- 1813.03. 王立研究所実験助手に採用される
- 1813.10. デーヴィー卿夫妻について大陸旅行. アンペールらと会見. ~1815.04迄
- 1813.12. 旅行中デーヴィー卿, 沃素(I)発見の論文を発表
- 1821.06. 淑徳賢明の養れ高き婦人サラ・バーナードと結婚
- 1823.03. 塩素の液化に成功
- 1825.02. 王立研究所実験室主任に就任. この頃から「金曜講座」
- 1825.02. ベンゼンを発見
- 1829.05. デーヴィー卿, ジュネーブで死去
- 1831.11. 電磁誘導に関する最初の論文を発表
- 1833.11. 王立研究所科学教授に就任
- 1834.01. 電気分解に関する法則発表
- 1834.06. ボルタの電堆に関する研究
- 1835.01. 自己誘導現象の発見
- 1837.11. 静電誘導の発見
- 1838.01. 真空放電現象の発見
- 1838.03. 母マーガレット・ファラデー死去
- 1845.12. ファラデー回転発見, 反磁性体の発見
- 1850.08. 電気と重力に関する論文を発表(場の概念の提唱)
- 1851. 磁力線に関する研究を開始
- 1857.11. 光と金属の相互作用に関する論文を発表
- 1858. 女王からハンプトンコートの屋敷を贈られる
- 1862.06. 最後の金曜講座
- 1865. 王立研究所辞職
- 1867.08.25 ハンプトンコートの自宅で永眠. 享年 76 歳. ハイゲート共同墓地に埋葬さる



ロンドンサボイプレス



**遺言** 余は貧困なる鍛冶屋の子孫としての資格と終始せんと欲するが故に賤民の共同墓地に余の遺骸を葬るべし。且つ墓標の如きも尋常貧民と同一のものたるべく決して大いなる石碑を建つべからず。(遺族はウェストミンスター寺院に埋葬せず)

# 製 鋼 家 ベ セ マ ー



1811年（文化8）イギリスの片田舎の貧しい家に生まれ、学校教育を受けられず初歩的な書写・算術・読書を習った程度。18歳の時ロンドンに出て25歳くらいまでは市内で漂泊生活。器械に興味関心を持っていたのでいろいろ工夫し専売特許を取得するが成功せず。ベセマーは忍耐力が強く失敗に失敗を重ね不撓不屈の精神で少しも落胆せず工夫を凝らし研究に全力投球した。

ある日、装飾品に使う青銅の粉末が原産地では、1斤22銭なのに22円で販売されているのを見て、販売すれば100倍になる。その製法を工夫して成功すれば莫大な利益を上げることができる。

- (1) 苦心惨憺して18ヶ月研究するも成功せず、さらに6ヶ月研究し製法を発見し、1円の未製品を18円で販売し巨利を得る。
- (2) 製鉄所を購入し鋼鉄の製法の改良を図り、30ヶ月間巨万の資金を投入し圧搾空気と鑄鉄とによって鋼鉄の生産が出来ることを発見。この製法は「燃料を要せずして鋼鉄を製造する方法」として、1856年（安政3）当局の認可を受け販売したところ3週間以内に20万円もの売り上げがあった。

## ＜与論の反撃を受け四面楚歌になったベセマー＞

特許を売り出して2ヶ月後、この製法では良質の鋼鉄は出来ないと産業界始め各界から批判され孤立の状況になる。そこで新特許法の代価数10万円を悉く返還。実験を開始し3年間で資産を使い果たしたが、非凡な忍耐力でその原因を追及。原因は「新製鉄法の非なるにあらず、鉄の中に含まれる燐分」が唯一の原因であることを突き止め除去することが出来た。

## ＜ベセマー製鋼法＞

- ① 大製鋼業者の1トン当たり価格 600円
- ② ベセマーの生産コスト 60円…品質に優劣無く、ベセマーは200円で売り出し、大製鋼業者を圧倒する。鋼鉄業界の帝王と言われ、鋼鉄協会の会長を務め、「近世文明の大元帥」とも呼ばれたという。

## ジェームス・ワット(発明家)

スコットランドの発明家、エンジニアであり、トーマス・ニューコメンの蒸気機関へ施した改良を通じてイギリスのみならず世界中で産業革命の推進に貢献した人物である。

グラスゴー大学で機械工作の仕事に従事していた頃ワットは蒸気機関技術に興味を覚えた。

当時の機関設計ではシリンダーが冷却と過熱を繰り返していたためエネルギーを大量に無駄にしていた点に気づき、彼は機関設計を強化し、凝縮器を分離してエネルギーロスを低減し、基本的な出力の向上を図ることで蒸気機関の効率や費用対効果を高めた。

彼は、その後もいろいろと発明を続けたが、蒸気機関ほど影響をおよぼすようなものは完成できなかった。彼は1819年、83歳で亡くなった。彼の栄誉を称え、国際単位系における仕事率の単位に「ワット」という名称がつけられた。



### ワットが蒸気機関の他に発明、開発したこと。

- ① 望遠鏡を使った新しい距離計測法の開発
  - ② 石油ランプの改良
  - ③ 蒸気式絞り器の開発
  - ④ 彫刻複写機の開発
- などがある。

### 力の単位

1765年に蒸気機関を発明した際、仕事量を数値的に表せる単位を決める必要があった。ワットは馬に荷物を引かせ、33,000ポンド(約15トン)の荷物を1フィート(約30cm)を引ける力を1馬力と定め、力の単位とした。

### ワットの業績・評価

ワットが改良を加えたニューコメン蒸気機関は、発明後50年も工夫を加えなかった。ワットは、動力発生と応用に工夫を加え、労働形態に変革をもたらすことで産業革命を呼び起こす重要な役割をになった。重要な点は、鉱山で用いられる程度であった蒸気機関を工場の動力として使われる道を開き、そこで整備士や技術者など多くの人間が効率や能力向上に向けた英知を集める効果が生まれたところにある。

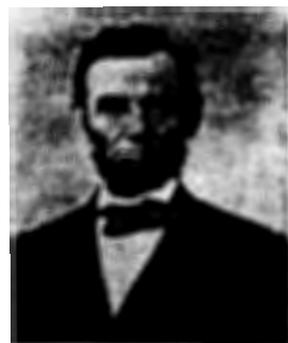
チャールズ・マレーが研究を纏めた書籍にて、歴史的に重要発明229件をランクづけしたところ、その1位はエジソンとワットの発明が占めた。

ワットは偉大な発明家でエンジニアである。

## リンコルン（リンカーン）大統領

**人物:** アメリカ合衆国第16代の大統領

奴隷解放の父・ゲティスバーグ演説  
南北戦争による国家分裂を乗り越えた



歴代大統領ランキングでは、しばしば最も偉大な大統領の一人に挙げられる。

また、アメリカ史上最初の暗殺された大統領でもある。

一方で、インディアンに対しては強い迫害の姿勢を見せた。

### 生い立ち

1809年2月12日

ケンタッキー州ラルー郡のシンキング・スプリング農場に建てられた間仕切りされてない丸太小屋で父トーマス・リンカーン、母ナンシー・ハンクスの息子として生まれる。彼の名は、インディアンに殺害された父方の祖父エイブラハム・リンカーンにちなんで命名された。この一家は、厳格な道德規範を持ち、飲酒やダンス、奴隷制度に反対するセパレート・パプテスト協会に通っていた。

1816年（リンカーン7歳）

土地の権利証が偽物だったため、彼の父は訴訟で土地の全てを失い、一家は貧困と奴隷制度のために、自由州（奴隷のいない州）であるインディアナ州スペンサー郡へ転居する。

1818年（リンカーン9歳）

母ナンシーが毒草を食べた牛の乳を誤飲したことでミルク病になり、34歳で亡くなった。母の死後は2歳年上の姉のサラがリンカーンの面倒を見ていた。

1819年（リンカーン10歳）

父トーマスが3人の子を持つ未亡人サラ・ブッシュ・ジョンストンと再婚した。エイブラハムと継母との関係は良好で、彼女のことを「お母さん」と呼んでいたという。

1828年（リンカーン19歳）

姉のサラは死産をして21歳で急逝した。

リンカーンの受けた正式な教育は幾人かの巡回教師からの1年分に相当するほどの基礎教育だけであり、それ以外はほとんど独学であり、読書も熱心であった。

# ドワイト・ムーディー

(米国人牧師：伝道者)

## 1 貧困の中で

マサチューセッツ州ノースフィールド生まれ。父母は貧困の農家で時にレンガ職人として賃仕事に励む。兄弟は男子7人、女子2人。4歳にして父は過労死、母は妊娠中、後に双子を生むも産後の肥立ちが悪く、長く病床に伏す。

まさに「赤貧洗うが如し」の生活長男は出奔行方不明、病母と10人の兄弟姉妹を養う。隣人憐れんで「奉公」に出ることを勧めるも、母は聞かず。少々の田畑仕事で生計を立てた。しかし、極貧の中ではあったが、家族は「慈愛の母」と孝行な子供たちとの団らん・和気洋々たる生活であった。



(1837～1899)

(62歳)

## 2 回心

17歳、ボストン出て流浪の中、靴職工の叔父の世話になり日曜学校に通学、ここで得た感激・感動により宗教家を志すことになる。19歳ではシカゴに移り、キリスト教会に加盟し、ますます聖書の研究・伝道に尽力する。

彼の性格は堅忍不拔にして決心は揺るがず、伝道の熱誠は下層社会に重点を置き、居酒屋・無頼の宿にも及び福音を説く声は周辺に響き渡った。

1860年の南北戦争に参加し、傷病兵を慰問・激励・救済したことは、氏の名を米国内に周知させるに至った。

## 3 英国での伝道

1862年、クリスチャンのレヴェルと結婚、家庭は夫人に任せて伝道活動に一層熱を入れることとなり、米国内第一の大伝道者として人々から尊信された。

1872年、英国民の熱心な招請により渡航し講演、国民の熱狂とマスコミ転載により凡そ300万人に及ぶ。帰国してのフィラデルフィア・ボストンでの盛大な歓迎

説教会、ボストンでは宏大なる教会堂や個人の住宅を新築して献上。1889年、ムーディー聖書学院を開校して布教ますます盛んなり。

## 4 遺言

我は野心家なり。その野心は人類の靈魂を清浄潔白にするにあり。汝ら余の遺志を継ぎ、同胞人類の精神を純潔ならしむることに努力せよ。



# レオン・ガンベッタ

19世紀フランスの政治家 (1838-1882)

## 子供時代

母マサシーは、レオンの聡明な天資を見て、5・6歳からナショナル新聞(共和主義政治家キール発刊)を読ませる。

7歳にして市内の子供を集めキールやギソーの口調で共和政治について演説し喝さいをうける。



1860年(22歳) 叔母マサビーの援助を受けながら苦学し法廷弁護士になる。

1868年(30歳) テルスチュー捕縛事件のテルスチューを弁護し、ナポレオン3世を糾弾しフランス中に名を知られる。

1869年(31歳) マルセイユ区から代議士に当選。

1870年(32歳) ナポレオン3世は普仏戦争を開始するがプロイセンの捕虜となり、ガンベッタらは帝政を廃止し、共和政の仮政府をつくる。



ナポレオン3世



普仏戦争

1871年(33歳) 普仏戦争でフランスがプロイセンに28億円の賠償金とアルザス、ローレン州を割譲し終結したが、

ガンベッタはこれに憤激しスペインに亡命。すぐ議員に

選出されパリにもどい共和政の基盤づくりに活躍し、

フランスで最も偉大な人物にあげられる。

この共和政は1940年ナチスに進攻されるまで続く。

1882年(45歳) 12月31日ピストルの暴発により死去。

1. 期日 平成25年7月26日(金)
2. 会場 茨城県開発公社 3階大会議室
3. 講師 會澤義雄根本正顕彰会会長
4. 開催時間 午後2.00～3.00
5. 参加者数 約150名
6. 参考 公益社団法人 土木学会関東支部茨城会総会における特別講演  
(特別講演は一般社団法人茨城県建設技術管理センター共催)  
特別講演(1)として、「私が取り組んだ景観について」

講師。茨城大学名誉教授、茨城大学大学院理工学研究科特任教授、

公益社団法人土木学会関東支部茨城会会長 小柳武和

講演時間 午後1.00～2.00があった。

## 7. 會澤会長講演内容

### (1) 根本正の生涯

那珂郡東木倉村に生まれる。12歳の時、豊田家の家僕となり、豊田天功に仕え、天功死去するとその子の小太郎に仕える。「義公様壁書」、根本家・豊田家・藤田家等関係図について。水戸藩御郡方役人から東京での苦学生活。箕作秋坪の三叉学舎や中村正直の同人社、ヘボン塾で学んだこと。念願かなってアメリカへ留学し、小学校入学からパーモンド大学を卒業したこと。鉄道王ビリングスとの出会い、アメリカ留学で学んだこと。そして帰国して政治家の道へ進み、政治家として残した数々の功績について説明。

### (2) 根本正と水郡線敷設

水郡線は水戸・郡山間(142.4km)と水戸・常陸太田間(19.6km、太田線ともいう)よりなる。太田鉄道の始まり—太田線は明治26年、太田地方の有志を中心に発起人39名で「太田鉄道株式会社」を設立して始まった。資本金は16万円。しかし、旅客や貨物の需要が伸びず、借入金も大きく、経営は行き詰まり、東京資本の水戸鉄道株式会社(安田財閥系)に資本金の50%弱で売却され、明治34年10月解散した。水郡鉄道の始まり—明治後期頃になると鉄道の重要性が認識され、鉄道の時代を迎えつつあった。明治24年には東北本線が開通し、明治31年には常磐線が開通していた。八溝山地と多賀山地の海岸沿いに挟まれた東白川郡笹原村の村議の白石禎実は、交通不便なこの地方の産業の振興、生活の向上を図るには鉄道は不可欠と考え叔父の北海道出身の白石義郎(福島県笹原村出身)を通して鉄道院に実地調査するよう請願した。

根本正(代議士)は佐々木鉄太郎、柏原左源太(いずれも福島県選出代議士)、白石禎実の4人で鉄道建設に関する建議案を第27回帝国議会に提出した。この建議案は、議会を通過したので、根本正と白石義郎は陳情書を持参し、鉄道院平井副総裁へ実地調査を依頼した。その後、鉄道院石丸重美建設課長の実地調査が行われた。茨城県側5町村、福島県側の既成同盟副会長の佐々木鉄太郎を初め有力者5名による水郡鉄道速成請願や大子実業団の結成、大子地方1町9ヵ村代表者による水郡鉄道速成請願協議会による鉄道院への請願書の提出など、いろいろと紆余曲折した茨の道であったが、昭和9年12月4日に水郡線全通となった。

### 水郡線の呼称の移り変わり

白萩線→白水線→大郡線→水郡線→水郡北線・水郡南線→水郡線

※白萩線は横断線、他は縦断線

### 参加者の声

水郡線開通までの経緯や、根本正をはじめとして関係者の方々の苦労や努力が簡潔明瞭な説明により、良く理解できて非常に良かった。(2人の声)

※ 講演内容が豊富で充実していたため、質疑応答の時間が少なくなり、2人の感想となった。

根本正の生涯、水郡線開通に関しましては、上記記載の方々以外にも多数の偉大なる先人達がおりましたが、紙面の都合上、名前を割愛させていただきましたことを、お詫び申し上げます。

## 大子町観光ボランティア研修会報告（要点）

- 1 日時 平成 25 年 11 月 12 日（火） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 20 分
- 2 会場 大子町文化福祉会館「まいん」 2F 会議室
- 3 参加者 20 名 小林茂雄理事 仲田昭一事務局長
- 4 内容
  - (1) 小林理事 根本正の生涯概要と教育  
殊に「根本正が学んだ三叉学舎、同人社、へボン塾で学んだ人たち」の紹介
  - (2) 仲田事務局長  
「水郡線敷設の背景および山方宿駅完成祝賀式典での根本正の祝辞」
- 5 質疑応答
  - (1) 根本正が政治家となった理由は何か。  
「マッチと時計」から英語圏への憧憬、苦学力行して米国留学、政治学を学問、平等の実現と教育改革の必要性痛感、国に有用な人物となれ → 理想実現への施策立案と実践は政治家にあり。
  - (2) 家系図をみると天狗派が多いことが分かる。  
豊田天功と姻戚関係にあったことは藤田東湖らと結ぶことにもなった。人との出会いと自らの目標・決意・実践力と情熱などの背景が成功への道となる。
  - (3) 根本正の選挙区の市町村と支援者層を具体的に知りたい。大子町はどのような役割を果たしたか。  
地元那珂台地を含む地域と大子町の支援（水郡線敷設計画が背景にある）
  - (4) アメリカで学んだ「貧は富をつくる」とはどのような意味か。  
「欧米貧児出世美談」を参照
  - (5) 根本正がともに学んだ人たちにこのように有名な人がいたことを知ったことは驚きであった。
  - (6) 水郡線の支線の存在棚倉～白河線もあったが、維持費の膨大さからバスに転換。大子駅発の国鉄バス路線があったのは、鉄道計画が挫折した引き替えであった。
  - (7) 観光ボランティアは根本正ばかりを紹介する訳ではない。広く浅くで良い。さまざまな話題を捉えておかなければならない。
    - ① 水郡線建設はどのような人々が行ったのか。人夫の層はどのような人々か。  
たとえば、大子町には所谷隧道があるが、そこには罪人が労働にかり出された、水郡線建設には罪人は動員されなかったのか。  
鴻池組などの参画があったのではないか。そこからどのような人夫が集められたのかは不明である。
    - ② 水郡線敷設により、南郷街道が一部破壊された。そのような認識しかなかった。鉄道敷設が優先されていた。
    - ③ 水郡線を利用した文学者・文化人に田山花袋や竹下夢二らがいる。そのような情報は如何か。  
水郡線への切り込方はかなりのテーマとなって出てくると思える。水郡線の紹介の仕方としてまとめるのも良いのではないか。  
水郡線敷設のもたらした地域への影響は郷土史的なものが多い、『大子町史』から学ぶことが多い。細かいところは地域の方々をお願いしたい。  
根本正顕彰会の立場は、根本正がどのような思い出水郡線建設に奔走したかに重点を置いていたい。
  - (8) 大子町が 2 回も胸像を建てた意味を大事にしていきたい。町もそのような点から根本正への意識もして欲しい。
  - (9) 「ゆかりの地を訪ねる旅」の一つに大子町も是非加えていただきたい。

## 平成 25 年度茨城・ブラジルふるさとリーダー交流会参加報告

1. 開催日時 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 12.00～13.30
2. 会場 水戸京成ホテル 「景山」
3. 根本正顕彰会参加者 會澤義雄会長、小林茂雄理事
4. 顕彰会以外参加者 ふるさとリーダー 2名・南米研修員 2名  
ホストファミリー 2名・茨城県海外移住家族会 西村和夫会長  
アルゼンチン県人会 小池貞会長  
茨城県国際交流協会 川又勝慶理事長・井上栄子 相談員  
茨城県生活環境部 高橋鉄夫次長  
茨城県生活環境部国際部 多木洋一課長・磯満課長補佐、楊箸幸恵係長

### 5. 交流会開催目的

茨城県出身移住者及びその子弟との親睦を深め、意見交換を行うことにより茨城とブラジルとの一層の交流推進を図ることを目的としております。根本正は明治 26 年にメキシコを 133 日間調査探検し、明治 27 年には 42 日間かけてブラジルを調査探検しております。交流会は毎年開催されており、顕彰会も参加して、交流親睦を図っております。

### 6. 交流会次第及び感想

県国際部 磯満課長補佐が司会者となり、開会の言葉に始まり、県生活環境部 高橋鉄夫次長の挨拶、続いてふるさとリーダー2名の紹介、出席者紹介、県国際交流協会 川又勝慶理事長の乾杯、その後歓談となりました。根本正顕彰会の活動状況、根本正の功績、根本正のメキシコやブラジル移民地探検などについて説明し、有意義な時間だったと思います。

(参考) ブラジルふるさとリーダー2名の日程

11月20【火】午後來日、水戸へ、翌日より、知事表敬訪問、県内視察、専門研修、11月27日(水)夕方帰国予定。

(小林 記)

# 五台小学校の6年生児童

## 「根本 正の研究発表」を行なう

五台小学校（加倉井 正校長）の6年生児童全員が、総合的な学習で【ぼくたちのまち・五台・過去から未来へ】をテーマに、地元が生んだ不屈の政治家「根本 正」についてそれぞれ調査研究を行いました。そしてこれらの調査研究をまとめ、平成25年10月5日開催した五台小学校の「しみずまつり」で発表が行なわれました。

「しみずまつり」は那珂台地の一部に位置する広大な「清水が原」の中に、大正時代に五台小学校が建てられていることからその名に由来するものであり、五台小学校の児童・保護者・地域住民が参加し、毎年10月に盛大に開催されている伝統行事であります。今年は特に「児童の発表」を主体的に取り入れ、その中の一つとして「根本 正」の研究発表が行なわれました。

研究発表は「根本 正」が政治家として取り組んだ内容を含め、①生い立ち ②国民教育授業料の全廃 ③未成年者禁酒法の制定 ④水郡線敷設への尽力 の4つに分けてまとめ、1クラスから2名の代表者で、2クラス計4名の代表者がそれぞれの項目について発表し、また発表にあわせて児童代表者によって寸劇も行なわれました。

この発表会には、児童・保護者・地域住民の方々も参観しており、調査研究した6年生の児童はもとより、多くの方々在地元郷土の偉人として知る機会となったことと思います。

「根本 正」の「生きる人間を大切に作る心」の精神が永く引継がれることを期待したいと思います。

（顕彰会副会長 増子輝雄 記）



研究発表する五台小児童



寸劇を演じる五台小児童

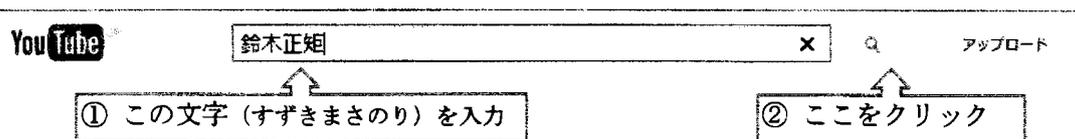
# 「根本正の生涯」

インターネットでこのビデオを世界中に配信できる様にしました。

ご家庭でもごゆっくりご鑑賞下さい。

検索は下記の通りです

## 1 検索文字を入力します。



## 2 下記の画面が現れます。



ご不明な点がございましたら、下記までご一報ください。

理事 (IT 担当) 鈴木正矩

Tel 029-298-7780

メール: [masuzuki@silver.ocn.ne.jp](mailto:masuzuki@silver.ocn.ne.jp)

## 【編集後記】

今号の巻頭言は、仲田義一副会長の今年の事業総括である。ほとんどはそれに尽きるのであるが、編集子からも少し触れさせていただきます。

- ◇ 根本正翁が歿してから80年になる今年、顕彰会の活動が大きく飛躍した。顕彰フェスティバルが、翁のふるさと那珂市を出て市外に打って出たことである。大子町など県北地区の人々にとって、鉄道敷設は最も喜ばしいことであり、地域の発展に大きく寄与したことは周知のことである。その水郡線敷設に衷心努力した根本正への謝恩の情は、2度にわたって胸像を建立したことに表れている。そこで大子町当局・同教育委員会の後援を頂戴して開催できたことは、実に大きな意義があったものと信ずる。顕彰会として大いに誇って良いことであろう。
- ◇ 「環境は人をつくる」といわれ、全ての人々にできるだけ良い環境を与えるようにとの配慮から多くの政策が施されているが、「環境」に左右されずに優れた自らの意思を以て生き続けている人々も大勢いることも確かである。「恵まれた環境」が人を劣化させることもある。経済的に恵まれた今日、「強い意思と高い志」を育てることが、明るい将来を期待する上で必要ではないか。公民館まつりで発表した『米欧貧者出世美談』に学ぶことは多い。
- ◇ 根本正翁は「正義天地を震わす」を揮毫しているように「正義」を大切にしていた。今日の日本の有様はいかがであろうか。次から次へと「出るわ! 出るわ!」、「嘘」の連続である。食品・料理への「嘘」の表示。これも「偽装」ではなく「誤表示」とうそぶく始末。超一流と言われてきた老舗・企業までもが続いている。なんと「さもしい」ことであろうか。足りなければ「無い」と素直に訴えればよいではないか。「儲ければよい」の経営に成り下がっていたのではないか。経営には「儲け」は絶対必要であり、良い経営でどんどん繁昌してもらい、それらが従業員や社会に還元されることを切に望むところである。かつて日本の代表的経営者の一人であった渋沢栄一翁は『算盤と論語』を著し「商業道徳」を説いていた。この精神を忘れてはならない。「この事実を知って頭の中が真っ白になった」と言って頭を下げればよいとは経営者の共通していることともいわれる。しかし、「嘘」はいつかはバレるのである。「天網恢々疎にして漏らさず」の至言は常に生きていることを忘れてはならない。「正義」が崩れつつある姿に、天から根本正翁の叱責が聞こえてくる感がある。
- ◇ 先の衆議院選挙も含めて一票の格差問題について、司法（裁判所）の判断が続いている。選挙制度の改革が叫ばれていることであるが、利害が絡む議員によってはそれは難しいことであろう。第三者の機関で立案することではないかと思う。人口格差も拡大している中では、人口比例だけでは解決できないことも事実ではなからうか。  
選挙についても然りである。「金を掛けずに、運動員は手弁当で」の根本正代議士の運動員たち。純粹な後援者・運動員たちであった。突然に現れた猪瀬直樹東京都知事の金銭借用問題、実態解明はこれからであろうが、驚きと無念とが交錯している。東京オリンピック招致が決まって、夢と期待が膨らむ日本国中に「やりきれなさ」が漂いはじめている。中村正直等根本正ゆかりの先人の墓参をした「訪ねる旅」は、われわれの心を正す旅でもあった。
- ◇ 小林茂雄理事には第1回公開講座をはじめ多くの事業のご報告をいただいた。ご尽力に感謝いたします。

平成25年(2013)も間もなく暮れます。会員の皆さまには来年もご多幸でありますようお祈り申し上げます。

(仲田(昭)記)